



軽石には白いペンキで塗ったような模様があるものが多いです。これは「コケムシ」という「外肛動物（がいこうどうぶつ）」の一種で、岩の表面にサンゴのような炭酸カルシウムの群体を形成します。摩耗していないコケムシがたくさんついているということが、つい最近まで海面を浮遊していた軽石であるという証拠の一つになるのです。



マンタ浜には「茶屋」もあります。私はほかにもいろいろ見たいところがたくさんあったので寄りませんが、かき氷を食べればよかったと、残念。



これは東日本震災の時に気仙沼市から津波で流出した路肩の杭です。9年かけて由布島に流れ着いたのだそうです。列島沿岸を南下したとは考えにくいので太平洋を一周してきたのでしょうか。驚くべきことです。



これは「タコノキ」という樹木の「支持根」です・

まさに名称通りの形状に感心してしまいました。



ちょっとした貝類の博物館もあります。種類を見ると、由布島産のものばかりではないようですが、なかなか珍しいものも多く、(冷房が効いていたこともあって) ここでかなり時間を使ってしまいました。



特にこの「ナンヨウダカラ」に目が釘付けになりました。ナンヨウダカラは漢字では「南洋宝」と書きます。「南洋に産する宝貝」の意味で、その大きさ、つや、気品に圧倒されます。かつて貝を収集していた友人が、江の島参道の貝の専門店に5万円の大金を投じて購入したのがこの貝でした。貝の収集家にとってはナンヨウダカラを1つ2つ持ってないと、様にならないのだそうです。



最後に「ちよう園」に寄りました。目当ては沖縄地方に多い「オオゴマダラ」です。